

八女市商工会 経営発達支援計画
平成 28 年度事業評価

平成 28 年 3 月

目次

- P03 . . . I. 経営発達支援事業の内容
- P03 . . . 1.地域の経済動向調査に関する事
- P04 . . . 2.経営状況の分析に関する事
- P05 . . . 3.事業計画策定支援に関する事
- P06 . . . 4.事業計画策定後の実施支援に関する事
- P07 . . . 5.需要動向調査に関する事
- P08 . . . 6.新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事
- P09 . . . II. 地域経済の活性化に資する取組
- P10 . . . 1.地域への波及効果が高い振興策・支援策の実施
- P11 . . . 2.地域資源を活用した商品開発と地域ブランドの育成
- P12 . . . III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組
- P13 . . . 1.他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関する事
- P14 . . . 2.経営指導員等の資質向上等に関する事
- P15 . . . 3.事業評価及び見直しをするための仕組みに関する事

I.経営発達支援事業の内容

1.地域の経済動向調査に関すること

(取り組み概要)

今まで関係機関の各種情報を必要に応じて事業所へ提供していたが、商工会独自の精査や活用がなされてこなかった。成長・発展する経営を目指すためには国際情勢や国の施策に影響を受けるマクロ的な経済動向や、地域資源の動向等地域特性を考慮したミクロ的な経済動向に注視し、舵取りを行う必要がある。各種調査資料の分析を充分に行い、データの共有を図りファイリングし、積極的に事業者への情報提供及び活用を行う。

(1) 各種機関及び関係団体の調査報告の収集・分析・提供

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28年度 目標	H29年度 目標	H30年度 目標	H31年度 目標	H32年度 目標
景況分析会議 回数	1	2	2	4	4	4
情報定期便に よる提供回数	10	2	2	4	4	4

(取り組み内容)

- ・日本政策金融公庫（刊行物・調査結果）からの情報収集。中小企業景況調査の収集（15社×3回 45回）
- ・福岡県商工会ニュース、商工会お役立ちPRESS等を情報定期便による提供10回
- ・景況分析会議は現時点では未実施。3月に実施予定。

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・情報定期便による情報提供については目標値を超えており、実施されていると判定する。
- ・ただし、景況分析会議を経ずに個別での情報提供がされていることから、その有効性については今後の課題とみられる。分析会議は3月に実施予定であるが、有効性を高めるためには、会議後に実施されることがのぞましい。次年度に向けての課題と言える。

(2) 地区内の業況調査の実施

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28年度 目標	H29年度 目標	H30年度 目標	H31年度 目標	H32年度 目標
調査回数	3	2	2	2	2	2
調査対象 事業所数	65	50	50	100	100	100
関係機関懇談会	3	1	1	1	1	1
観光客入込調査	3	10 (5カ所×2)	20 (5カ所×4)	20 (5カ所×4)	20 (5カ所×4)	20 (5カ所×4)
連絡会議回数	2	1	2	2	2	2

(取り組み内容)

①小規模事業者の業況調査

- ・45件(15社×3回)実施済み。2月に20社を別途調査見込み。

②地域資源の状況調査

- ・道の駅たちばなにて、地域資源と地域資源を活用した商品調査1回
- ・八女地区の農産物生産状況調査(八女市農業振興会)1回

③観光客入込調査

- ・(財)星のふるさと1ヶ所×3回実施済み。
- ・八女市商工業振興会議 観光需要開発等について意見収集(2回)

(判定)

- ・A:実施され効果(活用)が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・**B:実施されたが効果(活用)が見られないもの、もしくは不明のもの**
- ・C:実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・観光客の入込調査については、目標値を大きく下回ったものの、全体で見れば概ね実施されたと判断する。
- ・ただし、実施効果で考えると十分とは言えず、調査を実施したという段階でとどまると言える。今年度の期限内での有効活用が難しかったと率直に認めざるを得ない所であるが、実施された調査は来期に渡ってもいいので有効活用されることと期待したい。
- ・また、その効果を高めるために調査においても事業者へのアンケートの数を増やす意見も出された。この点についても次年度への課題としていきたいところと言える。

2.経営状況の分析に関すること

(実施の概要)

小規模事業者の経営分析は金融支援や補助金申請時の活用と限定的で、商品・サービスの開発、売上増加や顧客確保等での活用は乏しい。新たにバランススコアカード (BSC) の視点を参考に巡回時のヒアリングを改善していくことで、経営分析を強化して、発達支援の機会や課題等を早期に把握し 伴走支援につないでいく。

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28年度 目標	H29年度 目標	H30年度 目標	H31年度 目標	H32年度 目標
経営分析の 件数	25	20	25	25	25	25

(取り組み内容)

- 管内会員の実態やニーズの把握を目的に「会員実態及びニーズ調査」を290社実施した。経営者の意識・経営内容・後継者・経営課題等40項目についてデータ収集しヒアリングフォーマットに事業所別に整理
- 財務分析については、ネット de 記帳対象事業所 (約80社) の事業から25社抽出策定中

(判定)

- A: 実施され効果 (活用) が見られたもの、もしくは期待できるもの
- B: 実施されたが効果 (活用) が見られないもの、もしくは不明のもの**
- C: 実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- 巡回ヒアリングを290件以上実施した点は、これまでの取り組みから一段ステップアップしたと判断する。この取り組みは、経営指導員のみならず、支援員も同行しての取組であり、職員のスキルアップの底上げにつながっていくと考えられる。
- 一方で、もともとのねらいは、ヒアリングを通じて、一早く事業者の抱える課題や成長機会の発見を行い、適切な支援につないでいくことである。そこまで到達した取り組みには至っていないと考える。
- BSCの視点は事業者が認識している課題は勿論のことであるが、認識していない課題に気付くことが期待されている背景が内包されている。アンケート項目だけの確認にとどまらず、根本的な要因や関連を把握して実質的で本質的な支援につなぐことを期待したい。

3.事業計画策定支援に関すること

(1) 経営力向上のための事業計画の策定支援

(実施の概要)

事業計画の策定については、商工会が積極的なアプローチをしていなかったことで、補助金申請や資金計画等、限定的な策定支援に留まっていた。今後は計画的に事業者が経営課題を解決するため、経営分析等の結果及び地域内動向調査などの基礎データを取り入れた、効果的な事業計画策定により小規模事業者の持続的発展を図る。

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28年度 目標	H29年度 目標	H30年度 目標	H31年度 目標	H32年度 目標
事業計画策定事業者数	29	25	25	25	25	25

(取り組み内容)

- ・事業計画策定事業者募集のチラシを作成し全会員へ配布を行った。
- ・経営革新計画作成 3 社
- ・新事業展開補助金に係る経営計画作成 3 社
- ・持続化補助金に係る事業計画作成 19 社
- ・経営力向上計画作成 2 社
- ・小規模事業者経営発達資金事業計画書 2 社

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・件数は目標値を超えて取り組まれている。この点は事業の推進が良くできたと言える。
- ・具体的な取り組み内容が、経営革新以外は、持続化補助金が 19 社、融資関係が 5 社、と取り組みテーマにやや偏りが見られるともいえる。
- ・先に巡回ヒアリングでも言及したが、巡回後の事業者の課題やテーマの早期発見から事業計画の支援を通じて伴走支援を行う機会について、潜在的には補助金の申請よりも多いと考えられるため、その点の取り組みを更に推進できることを期待したい。

(2) 創業支援に関する事業計画の策定支援

(実施の概要)

創業支援については平成 27 年度から注力し、八女市及び八女商工会議所とともに創業塾（2 回の実施で計 30 名の受講 内当商工会地域からの受講者 5 名）の開催により支援を推進した。今後は年間 3 回開催に充実させ、より多くの創業希望者の掘り起しと支援体制の充実を図る。

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28 年度 目標	H29 年度 目標	H30 年度 目標	H31 年度 目標	H32 年度 目標
創業塾開催回数	3	3	3	3	3	3
内、当商工会地域からの創業塾受講者数	14	7	10	10	10	10
創業事業計画 策定件数	5	5	7	7	7	7

(取り組み内容)

- ・八女創業塾のチラシ作成による情報提供を実施した（3 回）
- ・八女創業塾の開催を合同で行った。（3 回） 商工管内受講者は 14 名の参加であった。
- ・新規創業計画書作成は 5 件を実施した。

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・目標には到達しており、管内から受講者数は大きく目標を上回った。合同開催にも大きく貢献したと言える。
- ・計画策定も目標通り 5 件に及んでいるが、まだ、取り組みができていない方もいたり、参加しておらずとも創業の相談の要請があるなどのケースにも丁寧に対応していくことを期待したい。
- ・事業内容の価値を高める支援や数値計画、特に資金繰りの計画の作成支援は必須であると言えるため、そのような支援のスキルも高めていきたいところである。

(3) 地域資源活用に関する事業計画の策定支援

(実施の概要)

地域資源活用による特産品開発は事業者の要望に応じて、必要な情報等の提供に留まっていた。八女市が策定した総合計画や地域活性化につながる取り組みを行う事業者については、国や地域の制度なども活用した取り組みも含めた計画の支援を行っていく。

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28 年度 目標	H29 年度 目標	H30 年度 目標	H31 年度 目標	H32 年度 目標
地域資源を活用した 事業 計画策定事業所	5	3	4	5	5	5

(取り組み内容)

- ・立花支所管内 1 件の実施、星野支所管内 2 件の実施、黒木支所管内 1 件の実施
- ・地域資源名：梅・桑の葉・ブルーベリー・棚田米・抹茶・みそ・醤油・ドレッシング他
- ・内ものづくり補助金に係る事業計画作成 1 社

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・目標値には到達している点は初年度としては評価するところである。
- ・ものづくり補助金までもちこめたものが 1 件であるということから、地域に影響をもたらす特産品の開発の取り組みにまでどこまで高められたかと言えば、その点は今後の課題ともいえる。
- ・特産品にまで高めるためには需要動向調査や入込調査などのデータを基として八女地域に何が期待されているのかなど、ニーズに基づく計画策定も必要になると言える。発達支援計画の各取り組みを有機的に結びつけることで質を高められる支援のあり方も今後は求められる。

4.事業計画策定後の実施支援に関すること

(実施の概要)

現状の支援体制では、経営革新や補助金などの事業計画実行について、要望や相談があった際フォローすることを主体としたきたが、計画断念となるケースも存在した。計画立案から実行、評価、対策までを支援することで、共に課題解決し、計画実現可能性を高めていく。事業計画策定初年度については、状況確認のため四半期毎に経営指導員による巡回等ヒアリングを実施し、進捗状況を勘案して以降の支援対応を行う。

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28 年度 目標	H29 年度 目標	H30 年度 目標	H31 年度 目標	H32 年度 目標
各種事業計画 フォローアップ事業者数	29	25	50	75	100	125
各種事業計画 フォローアップ回数	210	125	150	175	200	225
創業計画 フォローアップ事業所数	7	5	12	19	26	33
創業計画 フォローアップ回数	26	25	40	55	70	85
地域資源活用 フォローアップ事業所数	6	3	7	12	17	22
地域資源活用 フォローアップ回数	14	12	20	30	40	50

(取り組み内容)

①各種事業計画

<セミナー後のフォローアップ>

- ・持続化補助金活用セミナー（12/9）12名・個別相談会（12/21）3名
- ・持続化補助金個別相談（12/26）8名・個別相談会（1/13）5名
- ・経営革新計画策定個別相談（2/8）3名
- ・セミナー計31名

<巡回などによるフォローアップ>

- ・巡回及び窓口相談による事業計画フォローアップ支援 計202件
- ・経営革新53・持続化補助金91・新事業展開補助金25・経営力向上計画10
- ・特に支援が必要な案件は専門家派遣で対応した

②創業計画フォローアップ

- ・八女市新規創業補助金の活用に係る情報提供・資金調達支援
- ・創業者個別相談会（1/26）2名
- ・巡回及び窓口相談による創業計画フォローアップ支援 24件

③地域資源活用フォローアップ

- ・巡回及び窓口相談によるフォローアップ支援 9件（5社）
- ・ものづくり補助金活用によるフォローアップ支援 5件（1社）

（判定）

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

（評価）

- ・目標値は到達しており、初年度としては低い目標とは言えなかったものの、精力的にフォローアップに勤しまれたと判断する。
- ・国としては各種事業計画の充実を最も期待しているものと考え、先述の内容にも関連して、補助金などの支援にやや偏りが見られるため、巡回からの支援へつないでいくことを更に拡充していくことが期待される。
- ・フォローアップについては、各種専門家を活用することが更に求められると考えられるため、様々な専門家を活用するための取り組みも検討したいところである。

5.需要動向調査に関すること

(実施の概要)

商品やサービスなどの需要動向に係る情報収集は、経営革新計画や補助金申請時において、一時的にインターネットを活用して情報を収集していた。また、小規模事業者自身も経験等による主観で需要動向は掴んでいるものの、客観的な収集方法により各業界の需要動向を明確に掴んではいないケースが多かった。今後伴走型経営支援を行う上で、小規模事業者に応じた商品やサービスの需要動向を客観的なデータに基づいて収集・分析する必要があり、その情報を基に事業計画策定への活用を図っていく。

(1)商品・サービスの需要動向調査の実施

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28 年度 目標	H29 年度 目標	H30 年度 目標	H31 年度 目標	H32 年度 目標
需要動向調査回数	0	2	4	4	12	12

(取り組み内容)

- ・日本政策金融公庫（刊行物・調査結果）からの情報収集の実施
- ・外国人観光客の受け入れに関するアンケート報告書の実施は未実施であった。

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・今期は、初年度で十分な段取りができずに調査の実施が取り組み目無かった。来期に向けては実施できるように、担当者などを明確化する必要があると言える。

(2)地域の消費動向に係る消費者ニーズ調査の実施

(目標と実績)

事業内容		H28年度 実績	H28 年度 目標	H29 年度 目標	H30 年度 目標	H31 年度 目標	H32 年度 目標
地域の消費動向に係る 消費者ニーズ調査回数		2	2	2	2	2	2
	アンケートによ る 消費動向調査 ()内は調査件数	1 (101件)	1 (100件)	1 (100件)	1 (100件)	1 (100件)	1 (100件)
	小規模事業者の 店舗別品揃え調査 ()内は調査件数	1 (100件)	1 (100件)	1 (100件)	1 (100件)	1 (100件)	1 (100件)

(取り組み内容)

- ・地域消費動向調査（地域消費者の買物動向と特性）調査は集計済みで報告書の作成を行っている段階である。目標は到達見込み。
- ・店舗品揃え調査（店舗の立地・品揃え・経営意識）2月8日時点で72件まで調査済みである。目標値には到達する見込み。その後、集計・報告書作成を行う。
- ・その他、プレミアム商品券取扱店アンケート実施（53店）

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ **B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの**
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・目標値には到達したものの、活用という側面ではこれからであると言える。品揃えの調査についても、期間内いっぱいで行うのではなく、前倒しした取り組みが必要になると言える。年度の実施スケジュール等を今一度見直すなども検討したいところである。

(3)地域資源活用に係る需要動向調査の実施

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28 年度 目標	H29 年度 目標	H30 年度 目標	H31 年度 目標	H32 年度 目標
地域資源活用に係る 需要動向調査回数	2	2	2	2	4	4

(取り組み内容)

- ・地域資源活用に係る需要動向調査（管内 5 施設へ委託）を、2/1～2/20 と 2/24 にかけて、250（5 施設×50）回収見込みである。目標値には到達する予定である。

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・ **B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの**
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・こちら、目標値に到達するところで手一杯の状況と言えるため、効果をもたらす活用にまでは及んでいない。この点をどれだけ拡張していくことができるかが、今後の課題と言える。スケジュール、担当者など、再度検討していく必要があるとともに、今期の取り組みは来期にいかせるように推進を期待したい。

(4)需要動向データの分析及び情報の発信

(目標と実績)

事業内容	H28年度 実績	H28 年度 目標	H29 年度 目標	H30 年度 目標	H31 年度 目標	H32 年度 目標
需要分析会議回数	0	2	2	4	4	4

(取り組み内容)

- ・景況分析会議は、未実施である。3月に実施する予定である。情報提供便で発信する予定。
- ・初年度の業務の流れの中に十分に取り入れることができなかった。

(判定)

- ・ A：実施され効果（活用）が見られたもの、もしくは期待できるもの

- ・ B：実施されたが効果（活用）が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・ C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

（評価）

- ・ 景況分析会議は 3 月に実施される予定であるが、情報収集までしか推進できなかった点は、上記の取り組みと同様にスケジュールなどの見直しを検討していきたい。
- ・ 需要分析はやはり活用される必要があるため、有効活用されるまでの取り組みを年度内に含めていきたいところである。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

（実施の概要）

本会の小規模事業者に対する販路開拓支援は、福岡県商工会連合会等が開催する物産展や商談会の広報と出店斡旋が中心で、その効果が一部限定的な事業所だけという状況にあった。今後はより外部機関等と連携を図り、更には地域内経済状況調査、需要動向調査の情報を踏まえた、商品開発と商品ブラッシュアップを進めていく。

重ねて新たな情報発信手段の提供を行う。以上から小規模事業者の弱点である「営業力」や「情報発信力」を強化し、地域内外の潜在的な需要の掘り起こしと新たな需要の開拓を支援する。又、実施後のフォローアップ（受注・成約進捗状況の把握、取引先の要望・提案の把握）を行うことで、改善策の提案や協議を進め、より効果的な販促策の実現を図る。

（目標と実績）

事業内容	H28年度 実績	H28年度 目標	H29年度 目標	H30年度 目標	H31年度 目標	H32年度 目標
既存のインフラを活用した ビジネスマッチング	2 (1)	10 (1)	15 (2)	15 (3)	20 (3)	20 (3)
福岡県商工会連合会・日本政策 金融公庫久留米支店と連携した 商談会・求評会への参加	0 (0)	5 (2)	10 (3)	15 (3)	15 (3)	15 (3)
道の駅たちばな等近 隣物産館 等への取引支援	0 (0)	20 (10)	20 (15)	20 (15)	20 (15)	20 (15)
建設関連業者斡旋紹介事業	0 (0)	10 (3)	15 (3)	30 (6)	30 (6)	30 (6)
情報発信の強化	20 (0)	10 (2)	15 (3)	15 (5)	15 (5)	15 (5)

(取り組み内容)

<ビジネスマッチング>

- ・むらからまちから館において2社の支援を行った。

<商談会・求評会への参加>

- ・フードエキスポ九州に2社の参加を支援した。
- ・県のおかもんフェアに1社の参加を支援した。
- ・地域中小企業支援協議会合同商談会に2社支援を行った。
- ・農と商工自慢の逸品展示商談会に1社支援を行った。

<近隣物産館への取引支援>

- ・道の駅たちばな・矢部地区観光物産交流施設柚のさと商談会開催の申し入れ承諾済

<建設関連斡旋支援事業>

- ・建設業プロモーションチラシの発刊について工業部会で提案し了承を得たが、効果が疑問視され実行に至らず。平成29年度改善継続を行う予定である。

<情報発信の強化>

- ・出展案内直接配信制度の普及推進(20社)
- ・プレミアム商品券発行による販路開拓支援を行った。FM八女を活用した。

(判定)

- ・A：実施され効果(活用)が見られたもの、もしくは期待できるもの
- ・B：実施されたが効果(活用)が見られないもの、もしくは不明のもの
- ・C：実施されなかった、もしくは実施されたが回数等が大幅に目標を下回っているもの

(評価)

- ・目標に到達したものは、情報発信のみであったが、それでも成約の実績は上げることが難しかった。その他は軒並み目標を下回っている状況となっている。

Ⅱ. 地域経済の活性化に資する取組

1. 地域への波及効果が高い振興策・支援策の実施

(実施の概要)

一過性の「地域活性化＝観光振興、にぎわいづくり」に終始せず、交流人口の拡大や地域の消費喚起につながる地域活性化に関連団体等と連携し取り組む。

(取り組み内容)

<商工業と観光に係る協議会の開催>

<交流人口拡大に向けた観光ルート構築の推進>

- ・八女市商工業振興会議を7回開催して関係構築を推進した。
- ・内2回は、市役所各支所商工担当者を交えて「特産品開発や観光ルートの構築」について意見交換会を実施した。

<デマンド交通活用による買い物弱者対策強化>

- ・買い物弱者対策については、デマンドタクシーでの支援策を検討中。利用状況などの状況を把握する段階の取り組みを行った。

(目標と判定)

- ・地域経済の活性化については目標設定がないため判定も見送る。

(評価)

- ・今年度は関連団体との関係構築が主たる取り組みとなっており、積極的に取り組まれたと評価する。関連団体によって温度差は様々にあると思われるが、市の計画を中心として、今後は、商工会としてできることを明確化して、各調査等の取り組みに基づく提案を行っていく必要があると言える。

2. 地域資源を活用した商品開発と地域ブランドの育成

(実施の概要)

茶・筍・木材を中心とする地域資源を活用した特産品開発や既存特産品のブラッシュアップを支援し、八女のブランドの構築により地域イメージを高め、地域ブランドの育成を通して地域活性化を図る。

(取り組み内容)

<八女ブランド構築による地域活性化>

- ・八女市商工業振興会議を2回開催し、八女市の商工業の振興について八女ブランド構築について意見収集を行った。

<農商工連携、6次化産業を見据えた連携づくり>

- ・八女市4団体協議会（八女市・商工会・会議所・JA）で地域資源活用（6次化）について協力要請を行った。連携を踏まえた具体的な取り組みは次年度へ持ち越しとなる。

（目標と判定）

- ・地域経済の活性化については目標設定がないため判定も見送る。

（評価）

- ・ブランド構築については、単にロゴデザインを設定するだけでなく、ターゲットとなる顧客やそのニーズと提供する価値や品質を明確化してブランドの中核を定めることが必要となる。その価値が見てわかるようにロゴやデザインが存在する。そのようなプロセスもよく吟味していき、意見吸収と商工会の立ち位置で有効な提案を検討していくことを求めていきたい。
- ・6次産業化は事業展開が弱いケースが多いため、商工会の支援のしどころはたくさんあると思われる。関連団体の得意分野が連携できるように、お互いの理解を促す役割を担うことを期待したい。

III. 経営発達支援事業の円滑な実施に向けた支援力向上のための取組

1. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること

（取り組み内容）

- ・八女市商工業振興会議7回開催
- ・マル経協議会2回実施。県職協筑後指導員部会懇談会2回（保証協会等との懇談会）実施。金融機関との創業支援の連携3回実施して支援の情報交換を行った。
- ・県連経営相談の活用の実施。ミラサポ専門家活用多数活用の実施。筑後中小企業支援協議会との連携等専門性の高い経営支援を実施することで、専門家などとの連携を通じたノウハウの交換を行った。

（目標と判定）

- ・目標設定がないため判定も見送る。

（評価）

- ・取り組み内容は精力的に取り組まれていると考えるが、一方で、既存の取り組みと同様であれば、支援の質も変わらないことになるため、巡回などから課題が抽出され伴走支援をしていく中での一つ一つの取り組みとなることを期待したい。そのことで、各職員のスキルアップや成長が高まると考えられる。

2. 経営指導員等の資質向上等に関すること

(取り組み内容)

- ・福岡県（振興事務所を含む）、県連、県職協等と連携して off - JT,OJT により 職員の資質の向上に取り組んだ。
- ・また、経営支援員が本格的に経営支援業務に参入することを目的して、本商工会職員の資質向上のため、職員向け経営セミナーを 3 回開催した。ヒアリングスキルなどを通じて巡回時にいかしている状況である。
- ・経営発達支援事業を円滑に推進するため職員全体会議を 3 回実施済み 経営支援課会議は適宜開催している。支援の方向性の一致を促進している。

(目標と判定)

- ・目標設定がないため判定も見送る。

(評価)

- ・こちらも、取り組み内容は精力的に取り組まれていると考えるが、既存の取り組みと同様であれば、支援の質も変わらないことになるため、巡回などから課題が抽出され伴走支援をしていく中での一つ一つの取り組みとなることを期待したい。そのことで、各職員のスキルアップや成長が高まると考えられる。
- ・職員会議などを通じて各員が発達支援計画の内容を熟知できるような工夫も必要と言える。

3. 事業評価及び見直しをするための仕組みに関すること

(取り組み内容)

- ・伴走型小規模事業者支援推進事業で連携により実施状況を確認し改善点などを検討した。
- ・事業評価委員会を 2 回（11/15、2/9）。計画より 1 回多く開催した。
- ・9 月に実施体制・実施事項の取り決めを行い、3 月に事業評価等で報告を行う予定。
- ・評価内容を、3 月の情報提供便と HP 上で公開予定である。

(目標と判定)

- ・目標設定がないため判定も見送る。

(評価)

- ・評価委員会での報告は効果の側面も含めた報告がのぞましい。そこから更なる改善案の側面も見えてくると考えられる。